

大正天皇崩御九十年を迎え、

「天皇紀」、「天皇実録」中、唯一未公刊であった
「大正天皇実録」を補訂して刊行。

大正天皇実録

補訂版

■宮内省図書寮編修／岩壁義光補訂／全六冊・別巻一

皇室系図

『平成新修旧華族家系大成』(霞会館華族家系大成編輯委員会編、1996年 吉川弘文館刊行)を元に作成。



「大正天皇実録」は、明治三十二年(二八七九)の御降誕から大正一五年(一九二六)の崩御に至る大正天皇の御生涯を編修した実録である。編修は、昭和二年(一九二七)宮内省図書寮に大正天皇実録部が設置され、編修課長芝葛盛を編修主任に、大正天皇の元侍従であった落合為誠と北小路三郎を御用掛に迎えて五カ年計画で開始された。しかし慢性的な人員不足や現代史故の資料収集の困難さから、昭和六年に三カ年、同九年にはさらに三カ年と編修期間が延長され、また臨時官制により編修官二名、編修官補四名が増員されるなど編修体制の強化も図られ、予定内の完成が目指された。こうして昭和十一年二月、大正天皇の「十年御式年祭」が行われるのを機として実録本文八五冊の編修を終え、昭和天皇に捧呈された。また、翌一二年には年表二冊、索引七冊、および実録資料稿本二一八冊の編

修も終え、同一三年に編修事業は終了したのである。今回、刊行するのはこの実録本文部分である。完成された実録は、同時期に編修課により編修された「天皇皇族実録」が編年史料体であったのとは異なり、臨時帝室編修局編修の「明治天皇紀」と同じく編年叙述体で編まれたが、史料の長文の直接引用やカギ括弧による引用表記などの特徴を持っている。内容的には、大正天皇が近代日本における最初の皇太子であったことから、皇室のグローバル化のなかで進む養育や教育の実態のほか、明治天皇にはない皇太子としての地方への行啓などがつづさに記されており、御日常の叙述には「嚆矢」となる記事が随所に見られる。また即位以降は、近代日本の国史として編修された「明治天皇紀」とは異なる天皇の御事蹟としての特徴を持っている。「大正天皇実録」の名が広く巷間に知られたのは、不幸にも情報公開法施行後の本文へのマスクキングの話題からであったが、再精査を経て現在公開されている実録は、天皇御在位中のマスクキングは二行に過ぎないほど限定的となっている。しかし、本文自体は経年による劣化で印字の不鮮明化が進行していることから、今回実録の本文全体を新たに翻刻し刊行することとした。翻刻に当たっては「明治天皇紀」同様に修訂を加えたが、本文の体裁を整えるなど最小限に止め、補訂から生ずる混乱を防ぐため、本書では「脚註」においてマスクキングの状態を明記し、補訂を加えた場合はその理由を記すと共に、注記を適宜加えて利用の便を図った。本書の刊行により、近代史の新たな部分に光が当てられれば幸いである。【岩壁義光】(専門) 日本近代史、記録資料学。一九五〇生まれ。法政大学大学院人文科学研究科日本史学博士課程後期満期退学。在学中、一九七八年神奈川県立博物館(現・県立歴史博物館)学芸部に就職。主任学芸員を経て、一九九〇年昭和天皇実録編修のため宮内庁書陵部に割愛異動。二〇一一年編修課長として退官したが、以降も同実録編修に編修事業終了まで従事。また本務の傍ら、在職中より大学で教鞭を執る。現在、法政大学、学習院大学、清泉女子大学で非常勤講師。東アジア近代史学会副会長。(主要著書)『黒船来航譜』(共編著・毎日新聞社、一九八八年)、『太政官期地方巡幸研究便覧』(共著・柏書房、二〇〇二)、近年は歴史資料の公開に取り組む一方、天皇皇族に関する論文を著述。

翻刻刊行に当り、向後の研究に供するべく、底本を補訂して各章末に「註」を附す。

明治二十五年七月

二五六

に到り、夫より人力車を馳せ神奈川県東多摩郡蓮光寺村に行啓、多摩川の清流に扁舟を浮べ、投網又は鵜飼をして鮎漁を行はしめ、更に游泳等の御慰に御興あり。午後四時多摩川畔を御発程、七時還啓あらせらる。○侍従武官日記・行啓録・官報

二十日、午前七時三十分御出門、陸軍士官学校生徒の水馬演習を隅田川中流に於て屋形舟の中より台覧、十時十五分還啓あらせらる。○侍従武官日記・行啓録・官報

初等学科第五年級御卒業

二十一日、午前七時御出門、学習院卒業式に台臨、初等学科第五年級卒業証書を受けさせらる。帰途参内、卒業を奏啓、十一時五十五分還啓あらせらる。猶ほ二十七日天皇・皇后より端溪硯及び

製図具を賞として賜ふ。○侍従武官日記・行啓録・官報・庶務課日記・侍従職日録

因に本学年間に於ける御学業に關しては、是の月、東宮武官長兼東宮大夫奥保鞆より奉れる御修学報告書に詳なり。仍りて左に之を抄録すべし。

御学業報告書

本学年二期ニ在リテ、学習院第五年級御卒業御同級生十五名ノ内ニテ、御及第被為在タリ。

宮中ニ於テ御練習在ラセララル武芸科ノ時間並ビニ回数計百三十三時二分、三百二二及ベリ。

武芸科ニ在テハ、御馬術一週三回、即チ火木土曜日ニ於テシ、小銃射撃ハ概ネ月水金曜日ニ於テシ、御体操ハ御運動少カリシ時ニ在テハ概ネ毎夕ニ於テ御從学アラセラル。尤モ斯ノ体操ノ

註

六四六

ング部分を削除。またこの文章は嘉仁親王の御学習上の事実なので、「御習ヒアラセラレタリ。」と改めた。

(11) 原本は「兼テ音階練習・歌詞略解ヲモ御教授申上、(以下一四文字分マスキング)」。マスキング部分を削除し、教授内容のみ生かして「歌詞略解ヲモ御教授申上タリ。」と改めた。

(12) 原本は「……時々ノ遊戯ニハ器械ヲ用ヒ御運動ノ補助トシ、(以下三行中三四文字分マスキング)」。マスキング部分を削除し、器具を補助として用いた事実のみを生かし「御運動ノ補助トナシタリ。」とした。

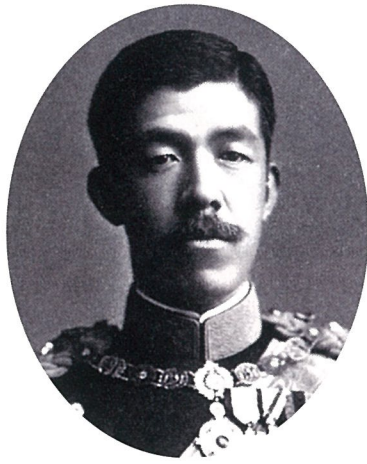
(13) 原本は「……御学友ト俱ニ、耆期試験ヲ受ケサセラレ、体操ニ於テ(二文字分マスキング)、乗馬ニ於テ(二文字分マスキング)、射撃ニ於テ(二文字分マスキング)ノ得点ヲ拳ゲサセラル」。各試験の得点がマスキングされている。得点を採られた事実のみを生かし「体操・乗馬・射撃ニ於テ夫々得点ヲ拳ゲサセラル」と改めた。

(14) 学習院における敬礼式は、明治一七年「生徒敬礼式」が制定され、同二年以降、数次の改正が加えられたが、内容は大きな変更はない。同敬礼式は、院内と院外の二部に分け、男子生徒(のち学生と改正)は室内では脱帽とし、室外では陸軍と同じく「敬礼ハ拳手注目トシ、其法姿勢ヲ正シ右手ヲ拳ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ当テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊クシ敬スベキ人ノ眼ニ注目ス」(改正生徒敬礼式第二条「室外ノ敬礼」第一項)と定めていた。(前掲「学習院百年史」一・二七九頁～二八二頁)

(15) 市ヶ谷原町は、正確には牛込原町(明治四年以降は原町に改称)。なお成城学校の敷地約四四〇〇坪は、この年一月一七日に明治天皇から同校に下賜されている。

卷十

(1) 原文は「……学習院第五年級御卒業御同級生十五名ノ内、(以下三文字分マスキング)ニ御及第被為在タリ」。内容は



『大正天皇実録』 関連事項

大正天皇

1879 (明治12) 年 8 月 31 日～1926 (大正15) 年 12 月 25 日

第123代天皇。諱は、^{よしひと}嘉仁。

幼少時の御称号は、^{はるのみや}明宮。

お印は^{じゅ}壽。

年月日	宝算	御事蹟	一般事項
1879 (明治12) 年 8 月 31 日	1歳	誕生。生母は典侍柳原愛子 (なるこ)。(六日、命名の儀。名を嘉仁、明宮と定められる)	3月 第二次琉球処分 (沖縄県設置)
1887 (明治20) 年 8 月 31 日 9月 19 日	9歳	儲君となる (かつ皇后の実子と定められた)。 学習院入学。皇位を継承すべき皇子として初めて近代学校教育を受ける。 軍隊用背嚢に学用品を入れて通学。ランドセルの初めとされている。	
1888 (明治21) 年 5 月 14 日	10歳	医療はこれより以降、西洋医学のみとなる (漢方医学を排した)。	
1889 (明治22) 年 11 月 3 日	11歳	立太子並びに立太子奉告祭の儀を行う。	2月11日 大日本帝国憲法発布、皇室典範制定
1890 (明治23) 年	12歳		11月29日 第一回帝国議会招集
1893 (明治26) 年 9 月 12 日	15歳	学習院中等学科入学。	
1894 (明治27) 年 7 月 17 日	16歳	学習院通学をやめる。	8月 日清戦争
1898 (明治31) 年 5 月 8 日	20歳	有栖川宮威仁 (たけひと) 親王、東宮實友 (翌年、東宮輔導) として皇太子の養育にあたる (明治36年まで)。	
1900 (明治33) 年 5 月 10 日 10月 14 日	22歳	公爵九条道孝四女節子 (さだこ) と結婚。同月三重・奈良・京都を初めて巡啓。 北九州巡啓 (～12月 3 日)。	
1901 (明治34) 年 4 月 29 日	23歳	迪宮裕仁 (みちのみやひろひと) 親王 (後の昭和天皇) 誕生。	
1902 (明治35) 年 6 月 25 日	24歳	淳宮雍仁 (あつのみややすひと) 親王 (後の秩父宮) 誕生。	1月30日 日英同盟締結
1904 (明治37) 年 3 月 20 日 11月 3 日	26歳	帝国議会 (第二十回) 開院式に初めて参列。 天長節観兵式に初めて参列。	2月 日露戦争
1905 (明治38) 年 1 月 3 日	27歳	光宮宣仁 (てるのみやのぶひと) 親王 (後の高松宮) 誕生。	9月 5 日 ポーツマス条約締結
1906 (明治40) 年 10 月 10 日	29歳	韓国行啓 (～10月23日)。	
1908 (明治41) 年 9 月 8 日	30歳	東北巡啓 (～10月10日)。前年より巡啓相次ぐ。	10月14日 戊申詔書発布
1909 (明治42) 年 11 月 3 日	31歳	帝国陸海軍中將に昇任。	
1910 (明治43) 年 4 月 13 日	32歳	参謀本部旅行演習 (岐阜) を初めて見学。	5月25日 幸徳秋水等逮捕 (大逆事件) 8月29日 韓国併合
1912 (明治45) 年 7 月 29 日 1912 (大正元) 年 11 月 12 日 11月 14 日	34歳	明治天皇崩御。翌日踐祚、大正と改元。 海軍観艦式を統監。 陸軍特別大演習を統監。	
1913 (大正 2) 年 8 月 2 日	35歳	明治天皇霊代奉遷の儀を行う。	2月20日 大正政変 (桂内閣総辞職)
1914 (大正 3) 年 12 月 1 日	36歳	宮内省に明治天皇紀臨時編修局を設置。	1月 シーメンス事件起こる 8月 第一次世界大戦勃発
1915 (大正 4) 年 11 月 10 日 12月 2 日	37歳	即位礼を行う。 澄宮崇仁 (すみのみやたかひと) 親王 (後の三笠宮) 誕生。	
1916 (大正 5) 年 11 月 3 日	38歳	裕仁親王立太子の礼を行う。	
1918 (大正 7) 年 1 月 1 日	40歳	英国王より同国元帥の称号を受ける。	7月 米騒動起こる 8月 シベリア出兵 9月29日 原内閣成立
1920 (大正 9) 年 3 月 30 日 12月 23 日	42歳	天皇の体調悪化により病状が公表された (第1回)。以降大正13年まで7回あった。 葉山御用邸に行幸 (翌年四月中旬に及ぶ)。	1月10日 国際連盟発足
1921 (大正10) 年 11 月 25 日	43歳	皇太子裕仁親王を摂政とする。	11月 4 日 原敬首相暗殺
1922 (大正11) 年 7 月 12 日	44歳	日光田母沢御用邸に行幸 (七ヶ月に及ぶ)。	2月 6 日 ワシントン海軍軍縮条約締結
1923 (大正12) 年	45歳		9月 1 日 関東大震災
1924 (大正13) 年 1 月 26 日	46歳	皇太子裕仁親王結婚の儀を行う。	6月11日 加藤高明内閣成立
1925 (大正14) 年 5 月 10 日 12月 19 日	47歳	生母柳原愛子ほか側近奉仕者に叙勲。 脳貧血にて一時人事不省となる。	4月22日 治安維持法公布 5月 5 日 普通選挙法公布
1926 (大正15) 年 5 月 11 日 7月 8 日 12月 1 日 12月 25 日	48歳	脳貧血様の症状再発。 皇族会議を開き、皇室陵墓令・皇族後見令及び皇族遺言令を審議。 皇室裁判令・王公族の権義に関する法律・王公家規範を裁可。 午前一時二十五分心臓麻痺により崩御。	

大正天皇実録

補訂版

■宮内省図書寮編修／岩壁義光補訂

●全六冊・別巻一

●揃定価：本体六五、八〇〇円＋税

ISBN978-4-8433-5038-6 C3321

【造本・体裁】菊判上製／本クロス装／美麗貼函入り・約四〇〇頁／五八〇頁

各巻の配本予定

※一〇ヶ月毎、巻数順に一冊ずつを配本予定。

▼第一 明治十二年～明治三十三年

御幼少・皇太子時代

発売中・二〇一六年十二月刊

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5039-9

▼第二 明治三十四年～明治四十年

御結婚後の皇太子時代前期

発売中・二〇一七年十一月刊

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5040-9

▼第三 明治四十一年～明治四十四年

御結婚後の皇太子時代後期

発売中・二〇一八年八月刊

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5041-9

▼第四 明治四十五年～大正元年～大正四年

天皇時代前期

二〇一九年六月刊行予定

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5042-9

▼第五 大正五年～大正九年／天皇時代中期

二〇二〇年四月刊行予定

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5043-0

▼第六 大正十年～昭和二年／天皇時代後期

二〇二一年一月刊行予定

●定価：本体八、八〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5044-7

▼別巻

索引・解説

二〇二二年十一月刊行予定

●定価：本体二二、〇〇〇円＋税 ISBN978-4-8433-5045-4

本書の内容と特徴

「大正天皇実録」の公開

大正天皇実録は、一九三七年（昭和一二）に当時の図書寮編修課により完成されていたが、その後長く非公開資料とされてきた。二〇〇一年（平成一三）朝日新聞社記者の公開請求がきっかけとなり、宮内庁は当時歴史資料と位置付けられていた「大正天皇実録」の公開を決定し、即位踐祚から崩御までの天皇在位期間を二〇〇二年から二〇〇三年、二〇〇八年にマスキング（いわゆる黒塗り部分）を施して公開した。二〇〇二年の公開部分は、巻四八～巻五五の八冊で八六日分。計一四一箇所が伏せられた。二〇一一年に施行された公文書管理法に従い、未公開であった幼少から皇太子期を含め、本文八五冊、年表四冊、索引七冊、正誤表一冊の全冊が公開された。この時点でマスキング部分は約三％へと激減、さらに二〇一五年、宮内庁は公文書管理法にある「時の経過」の規定を考慮しマスキング部分を再検討し、これにより非公開部分は〇・五％にとどまるに至ったが、詳細は不明ではあるが病状や学業成績などプライバシーや尊厳にかかわる記述が現在も非公開にされている。

翻刻にあたり底本に校訂を加え、詳細な註を附す

今回の翻刻にあたって、底本文のカタカナ表記を平仮名にすると共に、底本に補訂を加え、その根拠を註で明示した。墨塗り部分については、墨塗り部分を表しせず、たとえば「（註一）」のように示し、註記にて墨塗り部分の状態を明記した。

昭和天皇戦後巡幸資料集成 全18巻

瀬畑 源 監修・解説（刊行中）A5判上製●揃定価：本体290,000円＋税

「明治天皇紀」談話記録集成 全9巻

堀口 修 監修・編集 オンデマンド版 A5判上製●揃定価：本体144,000円＋税

近世有栖川宮歴代行実集成 全7巻

岩壁義光 監修・解題 A5判上製●揃定価：本体155,000円＋税

天皇皇族実録 全135巻

藤井讓治／吉岡眞之 監修 A5判上製●揃定価：本体2,497,500円＋税
孝明天皇までの歴代天皇の事蹟を中心に載録した戦前期最高水準の実録。

四親王家実録

吉岡眞之／藤井讓治／岩壁義光 監修・解説 B5判上製

既刊・第Ⅰ期『伏見宮実録』 全19巻●揃定価：本体475,000円＋税

既刊・第Ⅱ期『桂宮実録』 全7巻●揃定価：本体175,000円＋税

◆続刊◆ 第Ⅲ期：有栖川宮実録（全21巻・刊行中）／第Ⅳ期：閑院宮実録

▼関連企画▲



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6

TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493

http://www.yumani.co.jp/e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方● 日本近代史、日本文化史・政治史などの研究者、大学図書館、公共図書館、関係研究機関、日本歴史愛好者など。

全巻購入申込書	ゆまに書房刊			年	月	日	取扱店	
	大正天皇実録 補訂版 全6冊・別巻1 の購入を申し込みます。							セット
	お名前							
ご住所								
TEL ()								

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。